

## 平成 29 年度 第 2 回土木計画学委員会幹事会 議事録

日時：平成 29 年 9 月 11 日（木） 17：00～19：15

場所：TKP 博多駅前センター カンファレンスセンター 4

### ■ 出席者

委員長：屋井 鉄雄（東京工業大学）

副委員長：藤原 章正（広島大学），副委員長：毛利雄一（IBS）

幹事長：佐々木邦明（山梨大学）

学術小委員長：多々納裕一（京都大学）

大会運営小委員長：吉井稔雄（愛媛大学）

委員兼幹事：金森 亮（名古屋大学），Giancarlo Troncoso Parady（東京大学），羽鳥剛史（愛媛大学），平田 輝満（茨城大学），柳沼秀樹（東京理科大学），浅田拓海（室蘭工業大学），石橋智也（福岡大学），太田恒平（トラフィックブレイン），谷口綾子（筑波大学），中矢昌希（中央復権コンサルタンツ），藤井聡（京都大学）

学術小委員会委員：榊原 弘之（山口大学）

オブザーバ：林 淳二（土木学会）

### ■ 資料

[資料 1] 前回幹事会議事録（案）

[資料 2] 平成 29 年度土木計画学研究委員会名簿

[資料 3-1] 計画学秋大会におけるポスター賞の審査方法（案）

[資料 3-2] チュートリアルセッションの開催（空間・経済・統計分析）

[資料 3-3] 第 56 回土木計画学研究発表会（秋大会）関連報告

[資料 3-4] 第 56 回土木計画学研究発表会（秋大会）全体スケジュール（暫定版）

[資料 3-5] 第 57 回春大会準備状況

[資料 4-1] 平成 29 年度土木計画学研究委員会幹事会タスク役割分担（案）

[資料 4-2] ホームページの修正・更新状況について

[資料 4-3] 平成 29 年度土木計画学研究委員会 予算執行計画（案）

[資料 4-4] 調査研究拡充支援金の配分について（ご連絡）

[資料 4-5] 土木計画学ワグナーセミナー（仮）「国土・県土整備の基礎講座～土木計画実践～」

[資料 4-6] 土木計画学 50 周年記念シンポジウム記念冊子の作成予算に関して

[資料 4-7] 土木計画学の役割に関する検討 WG の設置について

## ■ 議事

### 1. 委員長挨拶

屋井委員長からの挨拶に続き、副委員長、幹事長、委員兼幹事より挨拶がなされた。

### 2. 学術小委員会報告（多々納，榊原）

- ・ 計画学論文集（特集号）の査読，修正依頼状況が報告された。
- ・ 本で行われた学術小委員会にて，後任の選任，論文賞候補についての議論に加え，査読プロセスの改善についての議論が行われ，特に以下の2点について幹事会に提案され，この方向で進めて頂く事が了承された。次回幹事会・委員会で議論，決定する予定。
  - 1) 現在の査読の判定結果は4段階であるが，分かりづらいという意見があり，「○登載可，△再査読（条件付登載），×掲載否」の3段階に変更する。
  - 2) 実務論文について，登載の条件，リジェクトされる理由などをわかり易く記載した「投稿時の注意点」を作成し，公表する（都市計画学会で実施例がある）。

### 3. 土木計画学研究発表会の準備について

吉井先生運営小委員長から以下の報告がなされた。

- ・ 秋大会（岩手大）の準備は順調に進んでいる。
- ・ 新企画として，学生向けのポスター賞，チュートリアルセッションの開催を行い，ポスター賞の選考や受賞方法の案について報告された。
- ・ 論文発表数がまだ多いので，今後ポスター発表を倍程度に増やしたい。
- ・ 春大会については，土日2日間の開催のため2日目の午後に参加者が減る傾向がある。そのため，アクセスのよい大都市で開催を検討中。次回東工大で参加者数のモニタリングをして，過去の地方開催時の状況と比較・検証を行う予定。また，次回春大会開催校の東工大から1日目夕方からイブニングポスターセッションの試行を検討している旨も報告された。

春大会について，以下の意見が出され，これらも参考に引き続き，大会運営小委員会で議論することとなった。

- ✓ アクセスのよい大都市（東京，大阪，名古屋）で開催するねらいも分かるが，計画学の趣旨（地方開催による地域振興・地域接触など）からは望ましくない。
- ✓ 地方のロードが大きい場合はアウトソース
- ✓ 2日目の遅くまでやることを前提にするなど
- ✓ 企業からの参加者は2日間の方が参加しやすい。

- ✓ 春大会を創設する際、春と秋で 2 回実施することに反対意見もあり、春大会を認め  
てもらうために、大都市で簡素にやること、秋大会との差別化のための企画セッシ  
ョンを中心にするなど条件とした。随分時間が経ったので、過去の議論の経  
緯を整理して、再度議論するのがよい。
- ✓ 当初より、春大会と秋大会が似通ってきてしまっている。春は他学会とのジョイン  
トセッションや、チャレンジングな研究の発表を中心にし、伝統的なものは秋大会  
で発表するなど、差別化を検討した方がよいのではないか。
- ✓ 東京開催だと異分野の人たちを誘いやすい面はある。
- ✓ 秋大会と TRB の締め切りが重なっているため、両方は出しづらい。

#### 4. 平成 29 年度幹事担当タスクの検討状況報告

- ・ 佐々木幹事長より、新しい担当、新 WG の立ち上げに関して説明がなされた。
- ・ 任期と引継ぎ方法に関して質問がなされ、任期は 2 年（2 年目委員は来年春大会まで）、  
引継ぎは適宜前任と連絡をとり、活動しながら行うことが確認された。

##### ① 活動評価・中期目標対応

特に報告なし

##### ② 本委員会・全国大会（羽鳥）

新委員会の体制・名簿について報告。国交省 2 名は既に交代しているため名簿を修正する  
よう依頼があった。橋本氏→沓掛氏（29 春～）、菊池氏→越智氏（29 秋～）

##### ③ 研究小委員会対応

前回幹事会で、研究小委員会が多いのではないかという意見があったが、引き続き議論を  
することとなった。

##### ④ HP 担当（ジアン）

英語サイトの作成を行うことが報告された。

外に向かって積極的に発信できる HP にするよう意見がなされた。

##### ⑤ 国際セミナー

- ・ 今年度の開催状況について報告がなされた。参加人数などの記録もしていることが確  
認された。
- ・ 計画学委員会の活動実績が、どのように土木学会や総会で報告されているのか質問があ  
った。中期計画・活動評価で活動実績をまとめて土木学会に提出しているが、総会  
では議案書で実施報告をしている。個々の国際セミナーの情報などの詳細は残ってい  
ないので、計画学としては WEB などを活用して、情報を残していきたい旨、依頼があ

った。

⑥ 国際センター・出版委員会担当（平田）

CECAR については計画学からは藤原先生から企画がなされ、指名で発表者を決めることが補足された。

⑦ ワンデーセミナー・シンポジウム（平田）

ワンデーセミナーの開催を増やすために、引き続き研究小委員会に開催依頼を行うことが確認された。

⑧ 全国大会研究討論会（ジアン）

本日開催された研究討論会について報告がなされた。非常に盛り上がり、議論も活発であった。今後、論文等の形でまとめることも検討している旨、報告がなされた。

⑨ 総務担当（羽鳥）

特になし。

⑩ 財務 WG 担当（佐々木）

- ・ 平成 29 年度の収入が確定したことが報告された。
- ・ J-stage 未掲載論文（2009～2010 年分）の掲載費用は執行済みで、現在作業中。
- ・ 全国大会研究討論会登壇者等謝金旅費は本日執行済み。
- ・ 50 周年記念シンポジウム記録冊子の作成予算について、100 部程度の印刷郵送費 30～40 万が予定されていることが報告された。→印刷部数はもっと多くても良いのではないかという意見があり、要検討となった。
- ・ 予算に余裕があるため、委員会主催のワンデーセミナーを地方で開催することが提案され、以下の意見が出た。引き続き、幹事長・ワンデーセミナー担当等で検討することとなった。

（意見）

- ✓ 予算執行はいつまでか→今年度（来年 3 月まで）
- ✓ 非会員の参加が多いと思われるので、参加費はとらなくて OK。
- ✓ 国土交通大学校との差別化
- ✓ 役所は急に言われても旅費がでない。早めにアナウンスしないときついかも。
- ✓ 講師謝金は出したほうがよい
- ✓ 役所は議会があるので、1 月実施がよい
- ✓ 以前、全国共通講義・出前講義という話があった。このようにすれば学生も参加するのではないか。
- ✓ 実務の水準を上げることが目的で、それは学会の役割。

- ✓ 基礎だけではなく、「基礎と実践」のような内容にしたほうが実務の人が参加する
- ✓ 実務者の悩みに答えたり、相談するような視点が良いのではないか。
- ✓ B/Cの誤解，それだけに拠らない決め方など，きちんと伝えることも必要
- ✓ 計画学のチャンネルが弱い地方での開催はどうか（鹿児島，島根など）
- ✓ 計画学ハンドブックを広げたい．抜粋配布はできるか．少なくとも組織には買ってもらいたい．

#### ⑪ 新WG（毛利）

- ・ 8/4 に土木学会大石会長に計画学への意見を聞く機会があり、「土木計画学の役割」に関する問題提起がなされたことが紹介され（塚田専務理事，屋井委員長，毛利副委員長，佐々木幹事長出席），それを受け，計画学の役割に関するWGの設置に関する提案がなされ，WGの設置が了承された．
- ・ 藤井委員兼幹事より，土木学会の「安寧の公共学懇談会」について補足があった．この懇談会は石田先生が座長で，土木の再定義をすべきというのが問題意識であり，その中で，一番大きな役割を担うのが経済・産業，景観などともつながる土木計画学ではないか．本来そのような役割があると大石会長も言っている．土木全体の中での計画学の役割については今後議論すべき．役割ということを少しブレイクダウンすると，①重要な研究課題，テーマはなにか，②出てきた成果をどう伝えるか，を考えることが重要ではないかということ．
- ・ 屋井委員長から以下の意見がなされた．会長から直接言われた機会は従来あまりなかったもので，今回はよい機会であり，しっかり受け止めるべき．会長からの宿題は時間をかけてやるべき．100周年の宣言も1年で終わらせない，など．5つの視点がある．
  - 1． 計画学の役割はなにか．公共投資は日本だけ減っている．
  - 2． 中長期計画を日本がもたなくなった
  - 3． 国際競争力にインフラが役立っていることを学問的に示しているか．
  - 4． 維持管理をきちんとやるべき
  - 5． 自然の凶暴化・土木施設でどこまで対応すべきか．

重要なところは変わらない，新しいこともやる．両方持つことが重要．

以上